

政務調査報告書(研修会開催)	
1 研修名	『晩ごはん選挙』の取り組みについて
2 議員名	熊高昌三
3 期日	平成31年4月25日(木)10:30~12:00
4 講師謝金・旅費	講師謝金(旅費込み) 20,000
5 研修内容	『晩ごはん選挙』の取り組みを実際に行い体験を通して学ぶ。
6 報告事項(調査結果)	幼思からお稽子で 晩ごはんやお昼ごはんのX=2-1 とこれこれ提案し、参加者全員が投票を行い支持する X=2-1が当選する仕組み。同じX=2-1でも提案者の 提案内容によって支持者の心が重くなる。提案内容の良 悪とこれこれ心情はどう訴えるかで大きく違ってくるが重要。
■成果または所感等	政治の世界でも政策を提案して候補者側、それを 判断して、選挙という形で投票者側、両方の立場を 体験することか出来た。 市の政策提案や報告等の場合、政策の内容は当然 大切だが、説明の行い方や推めようとする情熱の違いに よっては判断や選取肢が大きく異なる場合か あると痛感した。 議会が取り組んでいる、市民と議会との懇話会 等の場は、取り組む姿勢や情熱によって市民の持つ 感情によって大きく判断が変わる可能性もあると 強く感じた。

参加した議員は市選挙管理委員会事務局職員にとりて
有意義な研修となった。

(別紙様式2)

議 員 報 告 書	
1 議 員 名	秋田 雅朝
2 期 日	令和元年5月8日 ~ 令和元年5月10日
3 研 修 先 等	東京都中央区銀座1-6-2 ビジョンセンター東京有楽町 東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学アカデミーコモン棟
4 内 容 (目的)	「第18回地方から考える社会保障フォーラム」 「第11回日本自治創造学会研究大会」
5 報 告 事 項	
(研修目的)	
<p>「社会保障フォーラム」では、セミナー開催の案内文で、「政府は2019年度予算で高齢化などに伴う視野会保障費自然増分を約4800億円に抑え、全世代型の社会保障への転換を進めるとしています。これからも続く超高齢化社会にふさわしい社会保障のあり方とは？」とあったので、研修してみようと思い、参加してみました。</p> <p>「日本自治創造学会研究大会」では、テーマが「新時代到来～地方はどう生き残るか～」となっており、プログラムの中に「真の地方創生と地方自治」など、今後の議員活動の参考になると思われる講演があったので、参加して研修してきました。</p>	
(概要)	
1 日 目 (5 月 8 日)	
＜主な研修内容＞	
* 社会保障フォーラム	
(講義1)	
「人口減少の現実(長期的・短期的)と対応策(方向性)」	
講師：金子隆一氏(明治大学特任教授・前国立社会保障人口問題研究所副所長)	
「主な内容」	
1. 日本の人口動向・・・人口減少と少子高齢化の留意点について	
2. 人口動向がもたらす経済社会の課題と挑戦	
社会理念・持続可能性の危機・挑戦の考え方について	
(講義2)	
「社会保障・地方の課題とは？」	
講師：辻 哲夫氏(東京大学特任教授・元厚生労働事務次官)	
「主な内容」	
1. 社会保障の課題・・・財政見通しと人生100年超高齢人口減少社会の姿	
2. 弱っても安心して暮らせる地域とは?・・・柏プロジェクトの試みの説明	
(講義3)	
「これからの高齢者福祉一公的保険でやること地域でやること」	

講師：大島一博氏（厚生労働省老健局長）

「主な内容」

1. 2040年に向けた社会経済の変化・・・これまでとこれからの説明
2. 現下の介護の課題・・・人手不足、認知症、財政の持続性について

2日目（5月9日）

＜主な研修内容＞

* 社会保障フォーラム

（講義 1）

「新年度厚生労働省予算の概要—自治体にとっての影響は？」

講師：横幕章人氏（厚生労働省大臣官房会計課長）

「主な内容」

1. 令和元年度厚生労働省予算について
2. 2040年を見据えた社会保障制度改革について

* 日本自治創造学会研究大会

＜主な研修内容＞

（講演）

「自立へのシナリオを語る」

講師：穂坂邦夫氏（日本自治創造学会理事長・地方自立政策研究所理事長）

「主な内容」

1. 自治体の自立を必要とする社会環境の変化について
2. 自立へのシナリオを考える（21世紀型村落共同体を創る）
3. 実現への具体策を考える（元気で魅力的自治体の再生）

（講演）

「真の地方創生と地方自治」

講師：片山善博氏（早稲田大学公共経営大学院教授・元総務大臣）

「主な内容」

1. 地方創生とは何か—国のこれまでの地方政策を振り返る
2. 自治体戦略2040構想の報告書をどう読むか
3. 真の地方創生と地方議会への期待

（事例発表）

「地域ビジネスを成功させる智慧と実践」

竹井智宏氏（㈱MAKOTO 代表取締役）

「地方はチャンス～1粒1000円のライチの軌跡～

斎藤潤一氏（財こゆ地域づくり推進機構代表理事）

「外国人対策」

谷畑英吾氏（湖南省市長）

（講演）

「少子高齢化を乗り切る取組み～ゆでガエルにならないために～」

講師：斎藤 健氏（前農林水産大臣・衆議院議員）

「主な内容」

ゆでガエルとは、本来カエルは加温動物であり、温度による変化に対応するものであるが、温度変化に対応しなくなっている現実があり、こういうことから、ゆでガエルと表現するものである。人口減少が進行している中で、人口とは人の口と書き、人が減るということは、産業衰退に繋がると考えられるが、しかし、世界に目を向けると、人口は増加しており、食料難が続いている現実があり、そういう意味で農業は将来に可能性がある産業と考えている。

3日目(5月10日)

<主な研修内容>

* 日本自治創造学会研究大会

(講演)

「SDGsと地域循環共生圏」

講師：中井徳太郎氏(環境省総合環境政策統括官)

「主な内容」

1. 地球環境容量の限界とSDGsについて
2. パリ協定の意義
3. わが国が抱える環境・経済・社会の課題について

(講演)

「日本の課題と可能性」

講師：村上由美子氏(OECD東京センター所長)

「主な内容」

1. テクノロジーが職場を変える
2. 日本の高齢化・・・実はチャンスになる可能性がある
3. 労働生産性の世界のトレンド・・・世界的に下がっている

(講演)

「スポーツが持つ力と地域活性化」

講師：藤江陽子氏(スポーツ庁審議官)

「主な内容」

1. スポーツ基本計画について
2. 地域ならではの景観・環境・文化の活用例について説明

(講演)

「日本が売られる～自治体は最後の砦～」

講師：堤 未果氏(国際ジャーナリスト)

「主な内容」

1. 地方自治が取り組むべきこと・・・投資は水と食料にするべきである
2. 地方議会が鍵・・・地域の発展に議会の役割は大切となる

(パネルディスカッション)

「新時代到来～地方はどう生き残るか～」

問題提起：金井利之氏(東京大学大学院教授)

パネリスト：牛山久仁彦氏(明治大学教授)

土居丈朗氏(慶應義塾大学教授)

山下祐介氏（首都大学東京教授）

コーディネーター：穂坂邦夫氏（NPO 法人地方自立政策研究所理事長）

「主な内容」

1. 「地方自治をめぐる現状認識とこれからの課題」牛山氏
2. 「2025年に向けた社会保障改革」土居氏
3. 「過疎・過密・少子高齢化に対する問題点」山下氏

（成果及び所感）

今回の研修は、二つのセミナーを3日間で聴講するというハードなスケジュールでありましたけれども、大変有意義な研修であったと思っています。

まず「地方から考える社会保障フォーラム」を受講して研修したことは、「人口減少時代における社会保障・高齢者福祉における重要な取組み」は、「これからの地域づくり戦略」を地方から考えていく必要があることでした。なぜなら、今後も高齢化が進むとともに、人手不足の時代が続くと思われます。そのような中、介護保険も、保険給付頼りでなく、本人の力や住民相互の力も引き出して、介護予防や日常生活支援を進めていくことが必要となると考えられます。このことは、高齢介護福祉政策にとどまらない「地域づくり」を進めることとほぼ同義であり、地方自治体にとって存立に関わる根源的な役割といえます。こうしたことから、自治体（議会）の立場は、住民に依存されるだけでなく「地域の課題は地域で解決する」という意識や認識を持って住民と一緒に取組んでいくことが大切であることを研修しました。

次に、「日本自治創造学会研究大会」で研修したことは、この研修会のテーマである「新時代到来～地方はどう生き残るか～」についてである。それぞれの立場からの講師による講義を聴講したが、総合的に感じたことは、「自治体の自立が今後において重要になる」という観点から考えると、「方向性の誤りは自治体の危機」ということでした。だからこそ議会としては、議員個々がそれぞれの分野で研鑽を重ね、しっかり行政に提案していくことの必要性を感じました。「元気で魅力的自治体の再生」こそが「地方が生き残る」最重要課題と認識した研修会となりました。

議員報告書

1 議員名	玉井直子
2 期 日	令和元年5月9日～令和元年5月10日
3 研 修 先	東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学 アカデミー棟3F アカデミーホール
4 内 容	第11回2019年度日本自治創造学会 研究大会
■研修の目的 人口減少、高齢化がとどまらず進む中、自治体の自立を必要とする。社会環境の変化、自立へのシナリオを考へ、実現への具体策を考へ、研究大会に参加した。	
■概 要 第1日目 <ul style="list-style-type: none">・自立へのシナリオを考へ 穂坂邦夫 日本自治創造学会理事長・真の地方創生と地方自治 片山善博 早稲田大学公共経営大学院教授・事例発表「地域ビジネスを成功させる知恵と実践」 「地方はチャンス～1粒1000円ライクの奇跡」 「外国人対策」・少子高齢化を乗り切る取り組み 斉藤健前農林水産大臣	
■成果または所感等 第2日目 ・SDGsと地域循環共生圏 中井徳太郎 環境省総合環境政策統括官 ・日本の課題と可能性 村上由美子 OECD東京センター所長 ・スポーツが持つ力と地域活性化 簡江陽子 スポーツ庁審議官 ・日本が亮ける～自治体は最後の砦～ 堤未果 国際ジャーナリスト ・パネルディスカッション 新時代到来～地方はどう生き残るか～ 金井利之 東京大学大学院教授に問題提起としていただき、パネルディスカッションに先駆けて明治大学教授 土居文朗 慶応大学教授、山下祐介 首都大学教授とコーディネーターの穂坂邦夫 NPO法人理事長をお迎え、地方はどう生き残るかに対して、パネルディスカッションされた。 高齢化は今世界のメイトレンドで、超高齢化に向かっている。(課題解決)はビジネス化で1歩でも早くビジネスに結びつける。真の地方創生と地方自治の中で、国が打ち出した政策はよく見て考へなくてはいい。国が決めたことに従うだけでなく考へてほしいと言われました。私たち地方議員も考へ、行政に提案していくことが大切であると感じました。	

(別紙様式2 ②)

議 員 報 告 書	
1 議 員 名	前 重 昌 敬
2 期 日	令和元年5月9日 ~ 令和元年5月10日
3 研 修 先	〒101-8301 東京都千代田区駿河台1-1 明治大学アカデミーコモン棟アカデミーホール
4 内 容	第11回2019年度日本自治創造学会研究大会 新時代到来！ ～地方はどう生き残るか～
■研修の目的 安芸高田市が現在直面している、「人口減・超高齢化」に対応するため、自治体・議会は何をすべきか、この研究大会に参加した。	
■概 要 〔1日目〕 1. 自立へのシナリオを語る (財)日本自治創造学会理事長：穂坂邦夫 2. 真の地方創生と地方自治 早稲田大学公共経営大学院教授：片山善博 3. 事例発表 ① 地域ビジネスを成功させる知恵と実践 竹井智宏 ((株)MAKOTO 代表取締役) ② 地方はチャンス～1粒1000円のライチの奇跡～ 齋藤潤一 ((財)こゆ地域づくり推進機構代表理事) ③ 外国人対策 谷畑英吾 (湖南省長) 4. 少子高齢化を乗り切る取り組み ～ゆでガエルにならないために～ 齋藤 健 (衆議院議員) 5. 改革発表会兼交流会	

〔2日目〕

- | | |
|------------------------------------|--------------------------|
| 1. SDGs と地域循環共生圏 | 中井徳太郎（環境省総合環境政策統括官） |
| 2. 日本の課題と可能性 | 村上由美子（OECD 東京センター所） |
| 3. スポーツが持つ力と地域活性化 | 藤江陽子（スポーツ庁審議官） |
| 4. 日本が売られる ～自治体は最後の砦～ | 堤 未果（国際ジャーナリスト） |
| 5. パネルディスカッション 新時代到来！ ～地方はどう生き残るか～ | |
| 問題提起 | 金井利之（東京大学大学院法学政治学研究科教授） |
| パネリスト | 牛山久仁彦（明治大学政治経済学部教授） |
| | 土居文朗（慶応義塾大学経済学部教授） |
| | 山下祐介（首都大学東京人文科学研究科教授） |
| コーディネーター | 穂坂邦夫（NPO 法人地方自立政策研究所理事長） |

■成果または所感等

〔参考とすべき事項〕〔1日目〕

- ・概要3の事例発表では、起業家、経営者の支援のための投資育成活動の展開は参考になった
- ・外国人対策については、早い段階から多文化共生への取り組みを行っておられ、多文化共生社会の構築については大変参考になった。
- ・概要4では、これまでの一連の農政改革を説明頂きこれまでの法律改正等参考になることができた。

〔2日目〕

- ・概要1では、本市も一部対応できる政策等協議されているが、特に地域ニーズに対応した新たな脱炭素型地域交通モデルは参考になった。
- ・概要2での、世界から見た日本の課題と可能性については、チームワークを得意とする日本人が問題可決能力を持ち、システムをどう起こしていくかでは参考になった。
- ・概要3では、「Japan」の動画を作成した日本スポーツの紹介、基本計画による「人生」が変わる、「社会」を変える、「世界」と繋がる、「未来」を創るは大変参考になった。
- ・概要4の食をコントロールすれば国民が手に入るといった講演は参考になった。
- ・概要5は、パネルディスカッション方式で人口減少、人口人材対策等幅広い分野で討議される内容は自治体、議会共々参考になった。

〔提言その他（本市の施策等に活用すべきかなど）〕

- 人口減少対策において、自分たち（自治体）の暮らしを振り返り、課題を解決していくかは、自分たちの自治体住民が考え解決していく手法等執行部へ提言していかなくてはならない。
- 市議会として現在行っている委員会懇談会の継続開催含め、今後市の課題の集約・設定、課題解決策、課題解決の政策決定、政策の実施を、任期中に議会が一枚岩となり繋げていきたい。
- 人材不足の課題についても、市へ政策提言していきたい。特に介護人材が不足する中人材に代わる介護ロボット等の導入等含め、少ない人数で対応できる仕組みを、市、福祉施設、福祉団体、地域等一緒に協議する場の設置から、具体策提言へ向け実施していきたい。

以上、今回の研究大会参加した中、上記の内容含め議員として一步一步焦らず、一般質問含め提言していきたい。

議員報告書

1 議員名	熊高昌三
2 期日	令和元年5月9日～令和元年5月10日
3 研修先	東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学アカデミーコモン
4 内容	第11回(2019年度)日本自治創造学会研究大会

■研修の目的

「新時代到来!～地方はどう生き残るか～」
テーマに今日的課題解決策について事例研究した
具体的内容を示しながらの地方議員を中心とした勉強会。

■概要

二日間に渡り14人の講師によりテーマ別講演と
事例発表。又、国の政策について環境面やスポーツに
よる地域活性化。OECDの視点からの日本について。
又、これからの地方の生き残りについて人口統計の加減等。

■成果または所感等

この学会は毎年楽しみに行っている研究大会です。二日間でこれだけ
多様なしかも著名な講師を向かえてこれだけの会費で参加出来る
研修は他に無いとも思っています。教員や社会の中で国の視点は
と違ふ地方の目線で地方自治はどうあるべきか、考えさせられる。地方に
は今の地方の独自性をどう活かすかが近年ますます高まって来ている感だ。
その具体例も3件発表され、その中で湖南市の谷火田英吾市長の講話
に感銘を受けた。我が安芸高田市の外国人対策は先頭を叩いていると
考えていたが、ここはすでに10年先を行っている感がある。是非詳しく
視察に行きたいと思った。又、国のSDGsの方向性も重要なテーマと
感じられた。スポーツも地域活性化のポイントとして取り組みたいテーマと
感じた。私自身交流会で住民自治と経済対策と題して11根地区の発表を行った。

議員報告書

1 議員名	金行哲昭
2 期 日	平成2019年5月10日 ~ 平成2019年5月10日
3 研 修 先	広島市
4 内 容	地方創生セミナー in 広島
■研修の目的	日本の将来につながる地方創生の考え方は
■概 要	<ul style="list-style-type: none">地方創生とは ~ 将来につながる地方創生5Gの実現と未来の地域社会とは地域医療再生で次世代医療情報ネットワーク
■成果または所感等	<ul style="list-style-type: none">地方創生は東京一極集中を是正し地方の人口減少に歯止めであり、地方における安定した雇用を創出することを感じた。次世代通信規格5Gは2020年の実用化話題であり我が村町と町では先駆者あり高速、大容量の次世代通信規格(5G)と活用が必須と感じる。